

人文死生学研究会 (第19回)

共催：心の科学の基礎論研究会

2021年8月1日 (日) 午後1:30～5:30 Zoom開催

渡辺 恒夫

東邦大学名誉教授

アニメとフランス小説にみる 自我体験からの死生観展開

語り得ぬはずの一人称の死をいかに物語るかの工夫をもの語る

1

あらすじ

- ①科学的と見なされている**終焉テーゼ**も、②伝統的宗教の**魂の不死説**も、一人称の死と三人称の死の異種混交から出発する故、物語としては不満足。
- 一人称的マッハ的体験世界から出発し直し、③私が死ねば世界が消えるという**世界消滅テーゼ**と、④私の死後・生前にも生きる「**他者とは誰か**」に手掛かりがあるという説をとりあげる。
- 方法：学生の報告する自我体験調査事例と、アニメ、小説中の事例の比較考察（＝現象学の方法（**想像的変更**の代用としての）複数事例比較による**本質観取**）。
- 取り上げる作品：
 - 近年のアニメより『**神様になった日**』（2020）『**シャーロット**』（2015）
 - フランスのカソリック作家ジュリアン・グリーン（1900-1998）の『**わたしがあなたなら**』（1947）『**ヴァルーナ**』（1940）
- メッセージ：私の死から出発する死生観展開をよりよき物語にするためには、「存在論的に対等な他者」とは何かについての省察がキーとなる。

2

<2017年度本研究会の発表より>
 人文死生学の**目的・対象・方法**：
 学を提唱するに必要な三本柱

- 1. 目的：自己の死の謎の解明
- 2. 対象：固有の対象領域の確保。**自己の死と他者の死の認識論的峻別**←2017が焦点化
- 3. 方法：自己の死という**経験を超えた領域を語るための方法論的工夫**←本発表はこれに焦点化

3

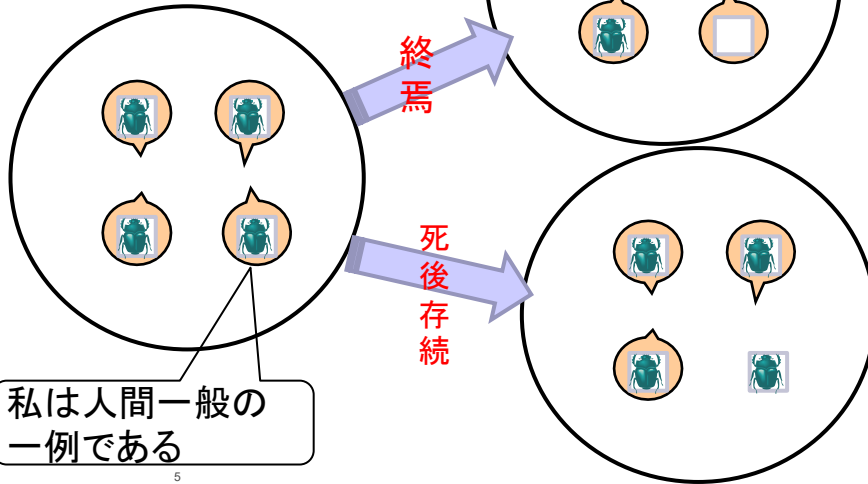
語り得ぬはずの自己の死を物語るための工夫

- 語り得ぬはずなのに物語ってしまうのが死生観、というところに着目。
- 例：終焉テーゼと死後存続説(魂の不死説)
- どちらも、自己の死でもなく他者の死でもなく、人間一般にとっての死を語ってしまっている。
- 終焉テーゼ：科学的とみなされ分析哲学系死の哲学の主流
- 死後存続(魂の不死)説：伝統的宗教の主流
- ⇒どのような暗黙の前提(=自己と世界の物語)に基づいているかの解明⇒次スライド図

4

終焉テーゼと死後存続説

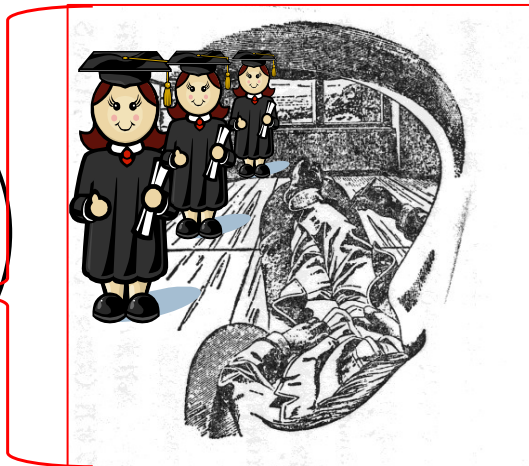
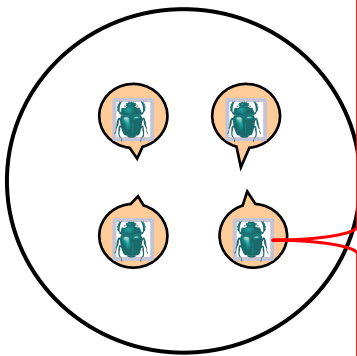
- 上空飛行的視点から想定された世界



5

私が直接経験する世界の(再)発見⇒右図
左: 上空飛行的視点から想定された世界

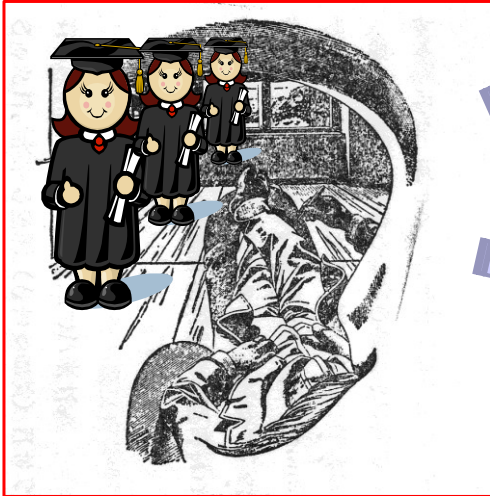
- 「私は人間一般の一例である マツハ的世界の自己と他者
る」



6

6

私が直接経験する世界(マツハ的世界)を出発点とする
 選択肢①私が死んだら世界が消える
 選択肢②私のいない世界に生きる他者とは誰かの問い



選択肢①

選択肢②



7

選択肢1) 私が死ねば世界が消える＝世界消滅モデル
 選択肢2) 私が死んでも世界が消えないとして、私のいない世界に生きる他者とは誰かへの問い

- アニメ、小説に体験事例を求める。
- 調査事例(『自我体験と独我論的体験』(北大路書房、2009)と比較する*。
- *学問的認識の第一歩は複数事例の比較。
- 現象学的方法としての本質観取:複数事例の比較→共通項と差異項の抽出→普遍化と差異化を通じての分類→最初の直観の精緻化、と進む**。
- ** *現象学は哲学でなく心理学。「現象学哲学は、虎が死して皮を残すように心理学・人間科学の方法を残して、歴史的使命を終つつあるのです。これからは、現象学といえば現象学的心理学を意味するという時代になるのです。」(拙著『明日からネットで始める現象学』新曜社、2021)

8

アニメ『神様になった日』

(麻枝准原作脚本、2020)



- 高校生の成神陽太の前に修道衣を着た少女があらわれ、「30日後に世界は終わる」と予言する。
- 少女・ひなは全知の神を自称し、未来予知や人の願いを叶えてみせる。
- 陽太はひなにふりまわされながらも、友人たちと楽しい夏休みを過ごす。
- 実はひなは先天性の病気で歩くことも話すこともできなかったが、祖父の博士の元で劇的な回復をしたことが判明してくる。
- 天才ハッカー少年が故・博士の研究内容を調査。博士が発明したチップ型量子コンピュータがひなの頭の中に埋め込まれていることを突き止める。
- ハッキングされた瞬間、ひなは、終わろうとしているのは「自分の世界」の方であり、死が近づいていることに気が付く。



9

複数事例の比較 ↓



筒井康隆『七瀬ふたたび』（新潮文庫、1978）

- に出てくる予知能力者の青年は、未来に自分で見る光景を思い浮かべることで予知をする。
- ある時から予知の映像には「まがまがしい赤い空」だけが出てくるようになって、てっきり能力がなくなったと思っていたら、最後に死の間際に見る光景だったと、種明かしされる。
- 最初から＜認識の限界＝能力の限界＞と理解されていたのだ。
- 『神様になった日』との違い。
- 予知能力者は成人で、堅固な常識的自明性の世界に生きていた。
- ひなは8歳の子どもで、常識的自明性の門が完全に閉じる前の段階だったから、＜認識の限界＝世界の限界＞という独我論的世界が、たやすく成立したのだ、と解釈できる。

10

〈認識の限界＝世界の限界〉の調査事例

- 【事例3-19】小学校低学年；「自分の視界に存在しないものは実際はなくて、自分が移動するたびに新しいものができると考えたことがある。例えば、今自分がこうして教室にいと、教室と外の景色（自分の視界）以外は存在しなくなるといふふう考えたことがある。」（19歳/男子）
- 【事例4-7】7歳—小学校の帰り道。ふと自分が死んだら自分の見ているこの世界はどうなるのかと思い、世界が消えるのかと思ったがそんなことはないと考えなおし、自分が見ているとはどういうことなのか、自分が死んだらどうなるのかを考え続けたがわからず、他の人に相談しようとしても上手く言葉で説明できなかった。（同書）
- （拙著『自我体験と自我論的体験』北大路書房、2009）

11

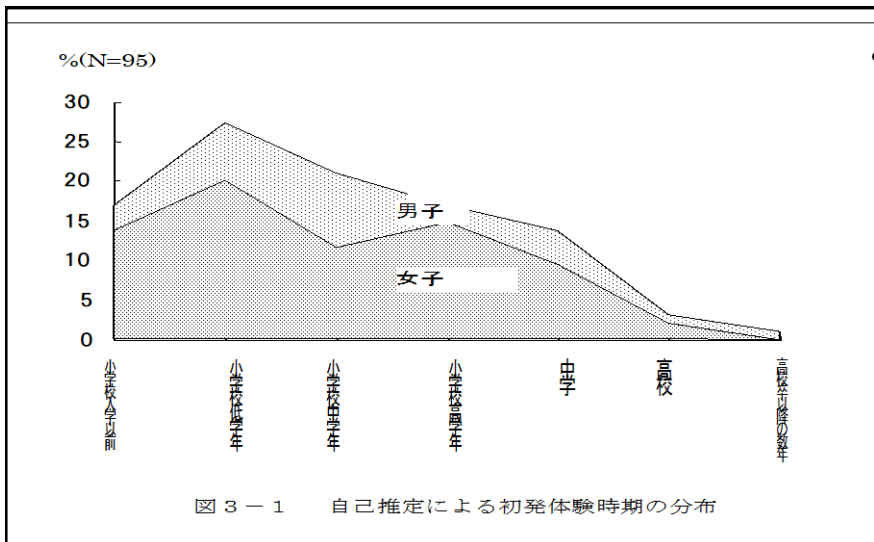


図3-1 自己推定による初発体験時期の分布

体験のピークは七〜十
一歳（自己推定）

12

A 「世界消滅モデル」が、アニメと調査事例で例示された。
B もう一つの可能性→「自分が消えても世界は続き、自分以外の人々（＝他者）は生き続ける」

- B案を追求してみる。ここで問題となるのが、
- **私（渡辺恒夫）がいなくとも生き続ける他者とは何か？**
- 他者の定義＝「私がそれであり得たのに（想像可能なのに）現実にはほそそうでないような存在」「可能的自己」
- 「目のまえにいる山田花子の実在を信じるとは、私が山田花子として生きる世界の実在を信じること」
- →この他者の定義は、次のアニメ「シャーロット」、小説『私があなたなら』でも前提されている。
- ところが私は山田花子として生まれなかったので、そのような世界は現実でなく可能世界に留まる。
- なぜ無数の他者の中の誰かではなく、「渡辺恒夫」が私であるような世界だけが現実世界になっているのか。
- この疑問が、常識的自明性の門が閉じる前の子どもに「自我体験の問い」を生じさせることがある。→「シャーロット」

13

『シャーロット』（麻枝准原作脚本、2015）

- 冒頭から次の独白で始まる：
- 主人公の乙坂有宇は、子どものころから、「**何故、僕は僕でしかないのか、他人ではないのだろうか**」と疑問に思っていた。
- そこで――
- 「他人を思ってみた。あの人も僕なのではないかと。」
- その結果、
- 「他人を思う、そうしたら僕は他人になっていた。」
- 5秒間だけ、狙いを定めた特定の他者になる、という特殊能力が**開花**。

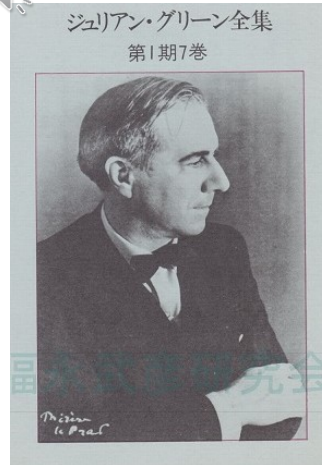


なぜ他の誰かではないのかという問いを、実際に他の誰かになる能力を獲得することで解消。同種の設定がフランスのカソリック作家の1945年作品にあり。

14

“Si j'étais vous” (私があなたなら) (1945)

- 序文に、子どもが「なぜ自分は他の誰かに生まれたのか」という疑問に悩まされたのが執筆動機とある。
- 貧しい文学青年が、魔法使いの老人に誘われて、秘密のパティ（悪魔の化身？）に連れていかれ、相手の身体に触れて、呪文を授け、相手と入れ替わるといふ、呪文を授ける。
- 主人公はまず雇い主と入れ替わり、銀行から大金を引き出して大金持ちになる。
- 老人の身体なので、内臓が痛む。
- 行き当てるばったりの屈強な若者と入れ替わると、その狭小な脳髓で、呪文は覚えられないか、分家の名を憶え果てに誤って絞め殺してしまう。
- 追われる身となった主人公の前に魔法使いの老人が現れ、主とふさわしい相手を選べとお説教をする。



ジュリアン・グリーン
(1900-1998)

15

これら作品での「他者になる」という発想の前提にある反省以前の他者了解
⇒私はその他者でありえたのに現実には私（渡辺恒夫）であり、その他者ではない。

- **現実に私が私（渡辺恒夫）でなくなる・なかった時の他者とは誰か？**
- 私の死後、出生前には、「現実には私（渡辺恒夫）である」という前提が外されるため、「私は……その他者**ではない**」とは**言えなくなる**（「**である**」ともまだ言えないが）。
- この問いが、輪廻転生観への展開を促すことがある。
- フッサール志向性論を応用（悪用）して「**である**」を論じているのが『人文死生学宣言』の「4章〈他者〉とは時間を異にした〈私〉なのか」
- ここでは、psycho-logic（心理論理）（Smedslund, 1991）*を使っている。

16

『ヴァルーナ』（高橋たか子訳、人文書院）

- ヴァルーナはインド神話の最高神。ユーミン「リインカネーション」の歌詞さながらの輪廻転生ロマンス。
- 16世紀ヴァロア朝の世に生きる裕福な商人の娘エレーヌは—
- 『どうして、と彼女は考えた。どうして、私はベルトラン・ロンバルの娘であって、ジャム作りのとき台所を手伝いに来る水門管理人の娘フィネット・ルジュールではないのだろうか。……私が、ほかならぬ私だというのは奇妙なことではないだろうか』（p. 92）。
- 「もっと奇妙な考えだって心に浮かぶことがあるんです。ほかの人であってもいいんじゃないかっていうのと同じように、私がまた、ほかの時代に、過去でも未来でも、生きていたかもしれないということなの。……いつかお話ししてくださったダゴベール王の時代に生きたのではなく、このアンリ王さまの治世に私が生きているのは、どうしてかって、いつも考えるのです。」（pp. 113-114）

17

〈いま・ここ〉の問いが転生観に結びついた例

- 【事例 9—1】（稲垣足穂）
- 俺はもっと人生を愛したい、味わいたい、面白いことをしたい。或は苦しみたい……など云って死にぎわに喚くには当たらないのである。自分がいま、ここにいるように、死んだら又、別ないまこの裡に閉じこめられるであろうことには、疑いはない。この論旨が薄弱だと考えるのは、未だ一度も「自分は何故他の誰かではないのか？」「何故たったいま此処に居るのか？」について思いを凝らしたことの無い者共である。
- 【事例 2—18】（21歳／女子）「何歳ごろかは覚えていないけど、よく思ったのは、なぜ今なのかということ。何千年も前から人間は生活していたはずである。……”りんね転生”ということがあがるが、誰かの生まれ変わりだとしたら自分が死んだ後、また誰かに生まれ変わるのだろうか。よく心霊の本などで前世を覚えている人というのが出てくるが、その人が確かにその本人だったなんて証拠はないのだ……」『自我体験と独我論的体験』

18

自我体験から輪廻転生への死生観展開の 心理—論理（psycho-logic*）

- * 体験構造連関の中で、「問い→答え」というように論理的な形をとった意味的連関を指す（論理的正当性の問題は括弧入れ） * Smedslund, J. (1991). The pseudoempirical in psychology and the case for psychologic. Psychological Inquiry, 2, No.4, 325-338.
- 1. 因果もの語り。自分が〈今、ここ〉にいることの原因（or理由）を、別な〈今、ここ〉に求める。過去と未来の双方向に適用可能。
- 2. 平凡性の原理。〈私が今、ここにいる〉という事態が、宇宙史上ただ一度起こったとするより、多数回生じたその一例に過ぎない、と考える方が、特異性の度合いが低くなる。

19

中間結論

- 「死生観」とは検証反証を要する「仮説」の類ではなく、経験を越えた領域へ向かってひらかれる物語。
- 4つの死生観物語モデル。モデル＝考え方の枠組み。
- 1. 終焉テーゼ。
- 2. 死後存続説。
- 3. 世界消滅説。
- 4. 「他者とは何か」の省察から輪廻転生観へ。
- 検証も反証もできないのであれば何を考えようと同じというわけではなく、モデル相互間の優劣がある。
- 優劣の基準＝エレガント（内的整合性、単純、直観しやすさ）、物語性、存在論的に対等な他者への納得いく態度、等：検討中。
- 1.2は、一人称的と三人称的の認識論的混乱に基づく。
- 3は、直観も確信もし辛く、物語性が欠如。
- 4が有望

20

4, 「他者とは何か」の省察から輪廻転生観へ

- 最低限の要請
- : 存在論的に私と対等な他者があるとすれば、それは時間を異にした私である。←フッサール他者論の批判的再構成によって言える (cf. 『人文死生学宣言』第4章)
- 死生観モデル
- 私が X_i ($i=1+n$: n は0以上の整数) であるような可能世界が次々と現実化してはまた可能世界へ戻ってゆく。

• <未完、作業中>

21

本研究の方法：現象学については、
新曜社、2021 ↓



- アニメについては、
- 山下敦久「アニメ総論 (2010年代中心に)」 (こころの科学とエピステモロジー, Vol.3, 73-92) https://doi.org/10.50882/epstemindsci.3.1_73) を参照しました。

• *Thank you for your attention.*

22